八　隣接チャネル漏えい電力（上り）

1　測定系統図

七の項の１に同じ。

2　測定器の条件等

⑴　信号発生器１からｎまでの設定は、七の項の２⑴に同じ。

⑵　3.84MHz帯域幅当たりの漏えい電力測定時のスペクトル分析器は、次のように設定する。

ア	中心周波数	４⑴において示す周波数
イ	掃引周波数幅	搬送波電力測定時：送信周波数帯域幅 隣接チャネル漏えい電力測定時：５MHz
ウ	分解能帯域幅	30kHz
エ	ビデオ帯域幅	100kHz
オ	Ｙ軸スケール	10dB／Div
カ	入力レベル	最大のダイナミックレンジとなる値
キ	データ点数	400点以上
ク	掃引モード	連続掃引
ケ	検波モード	ポジティブピーク
コ	表示モード	マックスホールド
サ	掃引回数	スペクトラムの変動が無くなる程度の回数

⑶　１MHz（100kHz）帯域幅当たりの隣接チャネル漏えい電力探索時のスペクトル分析器は、次のように設定する（800MHz帯に限る。）。

ア	掃引周波数幅	４⑵において示す周波数幅
イ	分解能帯域幅	815MHz以下又は845MHzを超える領域：１MHz 815MHzを超え845MHz以下の領域：100kHz
ウ	ビデオ帯域幅	分解能帯域幅と同程度
エ	掃引時間	測定精度が保証される最小時間
オ	Ｙ軸スケール	10dB／Div
カ	入力レベル	最大のダイナミックレンジとなる値
キ	データ点数	400点以上
ク	掃引モード	単掃引
ケ	検波モード	ポジティブピーク

⑷　１MHz（100kHz）帯域幅当たりの隣接チャネル漏えい電力測定時のスペクトル分析器は、次のように設定する（800MHz帯に限る。）。

ア	中心周波数	４⑵において示す周波数
イ	掃引周波数幅	０Hz
ウ	分解能帯域幅	815MHz以下又は845MHzを超える領域：１MHz 815MHzを超え845MHz以下の領域：100kHz
エ	ビデオ帯域幅	分解能帯域幅の３倍程度
オ	Ｙ軸スケール	10dB／Div
カ	入力レベル	最大のダイナミックレンジとなる値
キ	データ点数	400点以上
ク	掃引モード	連続掃引
ケ	検波モード	サンプル
コ	振幅平均処理回数	スペクトラムの変動が無くなる程度の回数

⑸　１MHz帯域幅当たりの隣接チャネル漏えい電力の探索及び測定時のスペクトル分析器は、次のように設定する（800MHz帯を除く。）。

ア	中心周波数	送信周波数帯域上端＋2.5MHz、送信周波数帯域上端＋7.5MHz、送信周波数帯域下端－2.5MHz及び送信周波数帯域下端－7.5MHz
イ	掃引周波数幅	１MHz
ウ	分解能帯域幅	30kHz
エ	ビデオ帯域幅	100kHz
オ	掃引時間	測定精度が保証される最小時間
カ	Ｙ軸スケール	10dB／Div
キ	入力レベル	最大のダイナミックレンジとなる値
ク	データ点数	400点以上
ケ	掃引モード	単掃引
コ	検波モード	探索時：ポジティブピーク 測定時：サンプル

3　試験機器の状態

第一の五の項の３に同じ。

4　測定操作手順

測定対象周波数帯が800MHz帯の場合は、⑴又は⑵のいずれかとし、２GHz帯の場合は、⑴又は⑶のいずれかとする。

⑴　3.84MHz帯域幅当たりの漏えい電力の測定

ア　複数割当周波数測定の場合

信号発生器１からｎまでの出力レベルを同じ値にし、試験機器の出力が最大になるように設定する。

イ　搬送波電力（P_c）の測定

㋐　スペクトル分析器の設定を２⑵とし、送信周波数帯域内の割当周波数の中心周波数を中心周波数にして掃引する。

㋑　全データ点の値をコンピュータの配列変数に取り込む。

㋒　全データについて、dB値を電力次元の真数又は相対値に変換する。

㋓　全データの電力総和を次の式で求める。ただし、参照帯域幅内のＲＭＳ値が直接求められるスペクトル分析器で測定した場合は、測定結果を測定値とすることができる。

$$P_c = \left(\sum_{i=1}^{n} E_i\right) \times \frac{S_w}{RBW \times n}$$

P_c　：各周波数での掃引周波数幅内の電力総和の測定値(W)

E_i　：１サンプルの測定値(W)

S_w　：掃引周波数幅（MHz）

ｎ　：掃引周波数幅内のサンプル点数

ＲＢＷ：分解能帯域幅（MHz）

㋔　㋓で求めた値を送信周波数帯域内で同時に中継する最大の割当周波数の数で除した値をP_cとする。

ウ　上側隣接チャネル漏えい電力（P_U）の測定

㋐　スペクトル分析器の設定を２⑵とし、送信周波数帯域上端から＋2.5MHzを中心周波数にして掃引する。

㋑　全データ点の値をコンピュータの配列変数に取り込む。

㋒　全データについて、データ点ごとにdB値を電力次元の真数に変換する。

㋓　真数に変換したデータについて、3.84MHzのＲＲＣフィルタ（ロールオフ率0.22）の特性により各データを補正する。

㋔　全データの電力総和をイ㋓の式で求め、P_cをP_Uと読み替える。

㋕　スペクトル分析器の設定を２⑵とし、送信周波数帯域上端から＋7.5MHzを中心周波数にして掃引し、終了後㋑から㋔までの手順を繰り返す。